平成 30 年 7 月豪雨　救護班活動報告

東 5 階病棟　看護師　太田菜摘

出発前の情報確認

私は大阪府支部医療救護第 2 班として岡山県倉敷市真備町に派遣されました。始めは「未熟な私に何ができるのだろう」と不安が強かったのですが、救護員経験のある先輩から話を聞き、準備物品や救護所で多く見られていた症状について事前に勉強して現地に向かいました。

真備町に入った途端、景色が一変し、街のいたるところが被災していました。また、復興に向けて頑張っている被災者の中には漠然とした不安を抱え、ぶつけようのない怒りや悲しみを持たれている方もおられました。その状況の中で、問診や処置をしながら被災された方々の話を聴き、必要に応じてこころのケアのスペースや時間を設けることも日赤救護班の重要な役割です。被災地の現状にショックを受けましたが、「こんな私でも看護師として役に立つことができる」と実感しました。

活動期間中は岡山県支部、和歌山県支部・京都府支部の救護スタッフと情報共有・引継ぎを行い、全国の赤十字のスタッフと協力しながら被災地を支援していることを感じました。また、赤十字マークの付いた車両をみた子どもたちが敬礼をしてくれたり、被災された方々がユニフォームを見て「安心する」と話してくださったことはとても嬉しく、自分の励みにもなりました。そして派遣が決まった時、急な勤務調整に職場のスタッフも快く引き受けてくれ、安心して活動地に向かうことができました。

災害はショックな出来事ですが、このような機会を頂けたことは自分の大きな経験となりました。新たな課題も見つかりましたので、日々学んでいきたいと思います。

7 月 25 日「情報ライブ ミヤネ屋」に出演